

# 「2021 国際協同組合デー記念行事 in 愛知」報告（記録）

日時 2021年7月2日（金）13:00～16:00

持ち方 オンライン開催

テーマ

## 協同は新型コロナの分断を乗り越える

<図：記念行事の開催案内より>

愛知の協同組合間協同の取り組みは、2012 国際協同組合年を記念して、農協グループと生協グループで実行委員会を構成し、2012 年は愛知・岐阜・三重で三県協同の国際協同組合デー記念行事を開催しました。2013 年以降は、引き続き農協グループと生協グループの協同組合が参加し NPO 地域と協同の研究センターが事務局となる実行委員会によって、毎年開催・継続してきました。

2020 年秋、日本協同組合連携機構(JCA)から「協同組合だけでなく、より多くの団体・個人が参加できる円卓会議を通して、地域課題の解決を考え合う」ことの呼びかけがあり、愛知の実行委員会でも、多くの人の智慧が集まるように分科会テーマを設け、それぞれに参加案内をして当日を迎えました。その結果、愛知県に限らず北海道から福岡県まで、また近県からも参加がありました。実行委員会では、今後も円卓会議として継続することを話合っています。

2021 年7月2日の全体会（開会・まとめ）と、分科会での出会いにより進展した「大学生への食糧支援」の取り組みを紹介します。

「2021 国際協同組合デー記念行事 in 愛知」開催のご案内	
<b>協同は新型コロナの分断を乗り越える</b>	
「2021 国際協同組合デー in 愛知」実行委員会 国際協同組合デー（7月第一土曜日）は、世界の協同組合が、協同組合運動の発展を祝い前進を誓い合う日です。愛知県では 2012 国際協同組合年以降、JAグループ愛知、生協グループ（コープあいち、南医療生協、北医療生協、大学生協連東海ブロック）、ワーカースコップ東海事業本部、NPO 法人地域と協同の研究センターが協同して、記念行事を開催してきました。 今年は円卓会議（Round Table Talks：参加者間の相互関係や席次にこだわらない）として開催します。テーマに関心をもつ協同組合関係者や団体・個人が、問題解決のためにつながりをひろげる機会とします。オンライン（Zoom）で開催します。協同組合以外の方、愛知県以外の方もぜひ参加ください。	
日時	7月2日（金）13:00～16:00
参加方法	オンライン（Zoom）参加 ※自宅や職場から仲間・個人がオンラインを通じて考え合う
<記念行事のすずめ方>	
12:45	オンライン開場
13:00～13:30	全体会：開会挨拶 趣旨説明「現代社会と協同組合の協同」（向井清史名市大大学院特任教授） 分科会テーマ紹介
13:30～15:30	分科会：6つのテーマに分かれて、実践事例を報告し、参加者で考え合います。 各分科会の内容（予定）、コーディネーターは裏面をご覧ください
15:30～16:00	全体会：各分科会の内容を共有。今後の愛知県円卓会議への参加を呼びかけます。 各分科会からの報告（各5分）、 開会挨拶

### 開会挨拶

JA 愛知中央会総務企画部部長 伊藤辰也

実行委員会にあたる「愛知の協同組合間協同相談会」では新型コロナウイルス感染症問題とその影響、今後発生しうる問題などから6つのテーマを設定し、実践報告をもとにテーマに沿って議論する分科会を用意しました。新型コロナウイルス感染症が広がるなか、各協同組合・協同組織の取り組みに学び合い、コロナ後の展望を拓く場となるようお願いします。

（いとう・たつや）

## 開催趣旨説明「現代社会と協同組合の協同」

名古屋市立大学大学院経済研究科特任教授 向井清史

今日、「協同組合間協同」は一層重要な意味を持つようになってきたと思います。地域と協同の研究センターの協力を得て、名古屋市立大学で「現代社会と人と地域のつながり」という講義を開講し、今年まで8年間授業を継続してきました。この授業では愛知県の協同組合や協同組織、NPO法人などから講師を派遣してもらい、様々な分野・領域から学生たちにその協働の実践・理念を紹介してもらってきました。この8年間で感じたことがあります。それは、「協同組合の認知度があまりひろがっていない」ということです。若者には身近な存在にはなっていない印象が拭えないのです。原因はどこにあるかを考えてみました。それはふたつあげられると思います。

### ひとつは日本文化の問題です。

OECDの意識調査で「社会に対する信頼感」に対する回答で、日本人は低い評価しか与えていません。相対的に日本は、お互い、信頼感を持たない社会だと結論されているのです。しかし、ある社会学者は、日本社会は信頼を求めるとはなく、「安心を求め社会」だと結論付けています。安心を求め社会＝氏・素性が分かっている人々との間の信頼感（安心感）は世界の中でも特異的に高いが、あまり近しくない人々との関係（一般的信頼感）は低い特徴があると指摘しています。日本文化は、濃密な関係については大切にすが、「ゆるやかな関係」を社会的に築いていくことが不得手な特徴を持つということです。

例をあげましょう。日本は世界でも有数の自殺大国と言われていますが、自殺率が特異的に低い町があります。多くの社会学者、心理学者から注目を浴びている、徳島県にある町です。なぜ少ないのか。あげられる理由のひとつが「ゆるやかな地域のつながりが強い町」であるという特徴です。日本の多くの町は稲作社会として発展し、濃密な集落内の人間関係を維持してきました。集落外やよそ者に対する信頼感を持つ機会が少ない文化だったのです。他方、この徳島県の町は木材集散地として栄えてきました。多くの人間が交流し、移住者も多い町でした。そこで育まれた緩やかなつながりを基盤に作られた文化が、自殺者数を抑制していると理解されています。互いに気かけあいながらも、それ以上不必要な関係にまで深入りしない。適切に見守りあっている関係が生きづらさを薄くしていると言われていました。協同組合は開かれた組織であり、濃密なメンバーシップを強いるものではありません。その意味で、協同組合は日本社会でなじみにくい側面があるのだらうと思います。

### 二番目は、法律体系の問題があります。

日本の協同組合に関する法律は「業法」的になっています。農協は農業、生協は食の安全だけにかかわっていると言うような狭い理解が社会的に浸透してしまっているのではないのでしょうか。あるいは、そのような理解を打ち破る動きが意識的に出来てこなかったということもできます。協同組合を広げるためには、協力して何かをなしていくことが持つ「わくわく感」、あるいは新しい文化をもたらしてくれるという期待感が絶対的に必要でしょう。これまでの協同組合は法律の枠を当然視し、社会の中にわくわく感を生んでいかなければ持続的に発展しないという意識が低かったのではないかと思います。社会全体のわくわく感を生み出すことは難しいかもしれませんが、かつて西武グループが生

活創造企業という理念を打ち出し、パルコや無印良品などを展開しました。服を売るだけでなく生活スタイルを提案するマーケティングが大きな発展を生んだといえます。多くの国民が生活提案企業、パルコや無印良品に行けばあたらしい消費スタイルに触れられると期待したのです。現在の協同組合は社会問題を解決する仕組みと言う点について、どれだけわくわく感を持たせられているでしょうか。

「協同組合の思想と実践」がユネスコ世界文化遺産に登録されました。農協あるいは生協としてではなく、課題解決の社会的な手段として協同組合を組織するという理念が歴史的遺産として登録されたのです。協同組合に結集することが、社会問題解決、貧困問題、コロナ、財政赤字などの閉塞感を突破することにつながるというわくわく感を国民に与えられるような活動、努力が大切でしょう。農業に関係がないので農協には関心がない、イオンでそこそこ安全な食料品が買えるので生協に関心はない、と業態的に理解されたままでは社会問題を解決する仕組み＝手段としての協同組合への期待は高まらないでしょう。

### 新しい協同組合運動をつくりだす可能性

このような中で、今年は転換期になり得る可能性があると考えています。労働者協同組合法が昨年12月に成立したからです。労働者協同組合は業法的に定義できない協同組合です。農協は農業に、消費生活は生協にというように事業範囲を定めた法律ではなく、労働者協同組合はどのような事業を展開しても良いことになっています。このことは、非常に新しい協同組合運動をつくりだす可能性が生まれたことを意味します。労働者協同組合はまだポピュラーな存在にはなり得ていませんが、これからの協同組合運動を発展させていくうえで、大きな力となりえる可能性を持っています。また、そうなるように協同組合間協同を通して育て上げていく必要があります。

このような新しい時代の流れを取り込み、明るい未来への可能性を感じさせる協同組合を育ててゆくことが今ある協同組合に架せられた課題ではないでしょうか。協同というかたちで社会的課題を解決していく枠組みを示すことが大切です。ひとつの業態にこだわらず、様々な社会的問題の解決を目指す。農協の活動舞台である農山村には過疎問題、生協が活動する市街地には貧困問題など、社会的問題が山積しています。これらの問題に対して、協同組合という仕組みが持つ可能性をどれだけ示して行けるか。これによってこれからの協同組合の展開も異なってゆくと考えます。ステークホルダーのみの利害を代表するのではなく、社会全体の公益・厚生を高める＝Well-being（ウェルビーイング）を高めていく存在として、協同組合が日本社会になくってはならないと認めてもらうことが大切です。

協同組合が業法で分けられている以上、ひとつだけの協同組合で社会的課題に対応することはほとんど不可能といってよいでしょう。労働者協同組合のように業態に縛られない組合が登場したことを機に、個々の協同組合が培ってきた財産を連携して活用しあうことができるなら、社会の閉塞感を打破する新しい流れを生み出す存在に成り得ると思います。今や、協同組合間協同は非常に重要です。定款の縛りはあるが、いくつかの協同組合が連携すれば解決できる課題はたくさんあります。今こそ、協同組合間協同を強めてほしいと期待します。

### 分科会への期待

「2021 国際協同組合デー記念行事 in 愛知」は多様な協同組合の参加を得て実現することができま

した。この成果は協同組合間協同の土台を広げるものと言えるでしょう。今日の機会を活用し、各組織の内実や考え方を語りあい、認識を深め合いながら、協同組合運動がどのように発展すれば社会的な認知度を高められるのか、そのような方向に向かって意義のある議論をすすめていただきたいと思います。社会課題を解決するために、互いの協同組合の枠を超え、協同組合に結集する人たちが協力して課題解決の枠組みを提起できるような関係づくりを目指しながら分科会での議論が盛り上がることを期待しています。

(むかい・きよし)

## 6つの分科会交流概要報告

<図：記念行事の開催案内より>

分科会：今年は6つのテーマで分科会を用意し、各実行委員組織がコーディネーターを務めました。

まとめて各分科会の交流状況をコーディネーターから報告し共有しました。

### ①生産と消費（食と農）をつなぐ コーディネーター： JAグループ愛知 山口豊喜

生産と消費をつなぐ、食と農をつなぐ、をテーマとしました。

JAグループ愛知で考えている「つなぐ企画」、コープあいちやトヨタ生協で実践してきた事例をもとに意見を交わしました。成功した事例、課題となっている事案、新型コロナウイルス問題で直接体験ができない、など、全体でたくさんの事例を出し合い良いヒントが得られました。

コープあいちから「地域生協と県下JAが連携した地元産の消費拡大」について、JAグループ愛知から「県産県消(けんさん・けんしょう)」というキーワードを示し、愛知県産を愛知県内で消費し、広げる取り組みを紹介しました。このキーワードはなかなか広がっていませんが、分科会参加者の間では「県産県消」という言葉を広く使ってもらえたので成果としたいと思います。「県産県消」を頭の隅に置き、購入するときには愛知県産を意識し、様々なものを手に取ることを広げてゆきたいと思います。

(やまぐち・とよき JA 愛知中央会)

<p>&lt;分科会&gt;※「交流事例とテーマ(予定)」に関連する事例があれば参加者のみなさんから発言ください。</p> <p><b>①生産と消費(食の農)をつなぐ</b> 地元で採れたものを地元で食べる。当たり前ですが、意外と意識されていません。地元のは新鮮で日持ちがいいだけでなく、地域の農業を守ることを通じて、食料自給率はもちろん、生活環境や防災力等に寄与する効果もあります。生産と消費をつなぎ県内の循環を高めしていく方法を考えます。 【コーディネーター】JAグループ愛知：山口豊喜氏</p> <p>【交流事例とテーマ(予定)】 ●3年に1度の愛知県JA大会を機に取り組み、愛知の生産と消費をつなぐ企画案(JAグループ愛知) ●地域生協と県下JAが連携した、地元産の消費拡大(コープあいち)</p> <p><b>②健康と人のつながりをとりもどす</b> コロナ下でも実行された取り組み、健康維持・回復への願い、密を避けつつ「つながり」をつくってきた実践をもとに考え合います。 【コーディネーター】南医療生協：柴田純一氏</p> <p>【交流事例とテーマ(予定)】 ●コロナ禍における協同組合の実践~ひとのつながり~(南医療生協) ●「コロナ禍をのりきる！」健康づくりの実践(北医療生協) ●孤立を解消する友達づくり(大学生協) ●感染予防とPCR検査について(コープあいち)</p> <p><b>③新型コロナと協同組合間協同</b> コロナ下で協同組合を超えた連携：大学生協とコープあいちの人事交流報告、学生調査で分かったコロナの影響、協同組合インターンシップから協同組合間協同を考え合います。 【コーディネーター】大学生協連東海ブロック：村瀬健一氏</p> <p>【交流事例とテーマ(予定)】 ●コロナ下の大学と大学生・大学生協(大学生協) ●コロナ禍で需要が低下した「花き」の有効活用(JAグループ愛知) ●大学生協と地域生協の協同組合間人事交流-2年間の大学生協出向から(コープあいち)</p> <p><b>④主体的な働き方をめざす協同組合</b> 働く人が主体となる協同組合(ワーカーズ)の実践を交流し、地域社会のさまざまな課題に関わりうる「労働者協同組合法」の可能性について考えます。【コーディネーター】ワーカーズコープ：岡田俊介氏</p> <p>【交流事例とテーマ(予定)】 ●主体的に働く(ワーカーズコレクティブ愛知・愛知県高齢者生協・ワーカーズコープ) ●守山区における学習支援(ワーカーズコープ)</p> <p><b>⑤子ども食堂・学習支援・食料支援と居場所</b> コロナ下における実践(フードステーションや学習支援の工夫等)を共有し、「健康な暮らしと人と人とのつながり」を復興する実践を、協同組合間協同などのつながりの中で考え合います。 【コーディネーター】北医療生協：河村徳夫氏</p> <p>【交流事例とテーマ(予定)】 ●コロナ禍での、子ども食堂とフードステーションの取り組み・状況(わいわい子ども食堂・北医療生協) ●みんなの食堂とJA・生協組合員、地域企業、住民のつながり(ワーカーズコープ) ●学びの場と居場所として(NPO法人ボトスの部屋) ●生協店舗での「フードドライブ」(コープあいち)</p> <p><b>⑥巨大(自然)災害に備える</b> 巨大災害に備え求められる三者(民間・企業・行政)連携とその中での協同組合の役割について、先行県の事例をもとに考え合います。★助言者：栗田暢之氏(NPO法人レスキューストックヤード代表理事) 【コーディネーター】コープあいち：柴山 実氏</p> <p>【交流テーマ】 ●愛知県生協連・災害対策委員会のとりくみから(愛知県生協連) ●地域・大学・自治体との災害・防災協定を生かす(大学生協・医療生協・コープあいち)</p> <p>実行委員組織：JAグループ愛知、コープあいち、南医療生協、北医療生協、大学生協連東海ブロック、ワーカーズコープ東海事業本部、地域と協同の研究センター</p>
---

## ②健康と人のつながりをとりもどす

### コーディネーター：南医療生協 柴田純一

健康と人のつながりを、コロナの中にあっても、どのように立ち向かい、とりもどすのか。

各生協の考え方と実践を踏まえて、十分とは言えませんがテーマに接近できたと思います。大学（生協）はコロナの影響で登校者が激減しています。その中でも工夫し勉強する環境と人とのつながりを維持してきたこと。コープあいちがコロナ感染拡大防止に関する職員へのサポートと指導、コロナの影響から事業面でコープ宅配が増えた大変さ。その状態で組合員が職員を自然に応援してくれたこと。北医療生協と南医療生協からは医療現場だからこそその大変さ。2020年の2～3月には生協病院職員だから保育園に来てはいけないという事態もありましたが、コロナへの理解を広げながら事業をどのように維持したのか。そして、医療生協組合員が培ってきたことを辞めずに続け、800枚のマスクをつくり地域の高齢者全員を訪問、など。さまざまな実践が共有できました。

職員を守りながら感染対策を確実に実施して、組合員の人と人のつながりを断ち切らないこと、コロナ前以上の状態をつくり上げること。協同組合それぞれの実践を積み上げ、コロナ後の社会で地域貢献ができるかを話し合いました。

（しばた・じゅんいち）

## ③新型コロナと協同組合間協同

### コーディネーター：全国大学生協連東海ブロック 村瀬健一

新型コロナウイルス問題に関わって協同組合にもそれぞれ環境があり、影響が異なります。コロナの中でそれぞれの協同組合がどのような状況にあるのでしょうか。コロナの影響は組合員、地域のくらしに反映しています。それぞれの環境下で協同をどのようにすすめるかが重要です。

協同組合間協同を考え合う話し合いで、JAや生協に相談したい時、日常的に相談できる窓口をはっきりさせておきたいと思います。相談できる相手は誰なのか、それぞれがどのような取組みをしているか、日常から知り合っていることが大切だ、ということが分かりました。

JAグループ愛知から「花き有効利用」として行政・コープあいち・大学と連携した事例。大学生協は学生委員から、コロナ下での学生アンケートを通して視た学生の状況（昨年と今）。コープあいちが大学生協出身経験者から、コープあいちと大学生協の人事交流の状況や自身の人事交流経験の報告がありました。

協同実践を考えて相談したい時、協同組合同士だけでなく、行政や諸団体との関係を日常的に築き、どこの誰に相談できるのかを分かりあっている状態にしておきたいと話し合いました。

（むらせ・けんいち）

## ④主体的な働き方をめざす協同組合

### コーディネーター：ワーカーズコープ 岡田俊介

労働者協同組合法成立からその発足に向け全国で様々な動きがあります。主体的な働き方をめざす流れが動き出しました。

向井先生から「協同組合は知られていない」とのお話がありました。知られていない協同組合の中でも、さらに認知度の低い「労働者協同組合」をテーマにした分科会で参加者は少なかったです。しかし、ざっくばらんに話し合いができました。3者からの発言を熱心に聞きました。その分意見交換

の時間が短くなってしまいました。

今の社会にはコロナ以外にも分断があり、そのような社会に協同組合はどのような道を示せるでしょうか。法制化が社会に与えられる影響は重要です。主体性、全員参加はどの団体でも課題で、放置すると「お客さん化」してしまいます。組合員主体は深く難しいテーマです。しかし、主体を育み続けることが協同組合活動の特徴のひとつであり、労働者協同組合法成立は協同労働の可能性を示すことができた反面、今後の課題も多い、など議論しました。

実践報告いただいた藤井恵里さん（愛知ワーカーズ・コレクティブ連合会）は全国連合会トップですが、出発は普通の主婦で生協活動に出会い今に至っています。私も就職先としてワーカーズコープを選択し不満を感じながらも続けるうちに協同の大切さを知りました。知って・体験してもらう機会づくりが大切だと話し合いました。

（おかだ・しゅんすけ）

<進行より補足>

労働者協同組合法が成立し、2021年度は総会・総代会への参加者も広がりました。法律分野での議論・動きは広がっていますが、この法律をどのように活かしてゆくのかは今後の課題です。「2021 協同集会 in 東海」をこの秋から冬にかけて準備しています。協同労働を考え合う場もあるのでぜひ共に語り合い、考え合いましょう。

## ⑤子ども食堂・学習支援・食料支援と居場所

### コーディネーター：北医療生協 河村徳夫

地域では社会課題の解決をとともにすすめる、人々の取り組みがあります。子ども食堂、学習支援、食料支援と居場所づくりの経験を交流しました。

9つの団体・個人、14名の参加で2時間があっという間でした。3つの実践報告を共有しました。ひとつは名古屋市北区の「わいわい子ども食堂」からコロナ下での「フードパントリー」の取り組み、もうひとつは「ワーカーズコープ愛知三河事業所」から「放課後デーいっぽ」と「みんなの食堂」、最後に「NPO法人ポトスの部屋」の報告で中学生の「学習支援と居場所づくり」でした。コロナ問題下の1年で財政面や金銭的運営面の苦労がある中の実践を熱く語ってもらいました。社会課題、地域課題を協同の力で、協同組合間の協同や他団体も含めて連携して解決する実践報告で感動的でした。

「見た目ではわからない」、「困っている人ほど困った顔を見せない」、「外見からは感じられない」と言われる貧困問題は、取り組みを通してでしか見えてこない。その深刻さは根深いと感じられました。物資面、財政面での苦労があるなか、地域や企業の力を借りて運営がされており、協同して地域の課題を解決することの大切さを共有しました。

（かわむら・とくお）

## ⑥巨大（自然）災害に備える

### コープあいち：柴山 実

南海トラフ地震への備え。集中豪雨災害の規模が広がり、温暖化もあり降水量が増加。災害は社会全体の課題であり、協同組合がどのような役割を担っているか、果たせるか。コロナ後の社会は南海トラフの危機に直面しています。この問題は全国に共通する課題でもあります。

3者からの報告を共有しました。愛知県生活協同組合連合会：この間の取り組みについての詳細報告。顔が見える関係づくりが大切。協同組合関係諸団体と連携・連帯推進が大切である、との呼びかけでした。栗田暢之氏（認定NPO 法人レスキューストックヤード）：災害ボランティア活動や連携・連絡関係づくりは東日本大震災で転機があった。それぞれが持っている力をどのように活かすか。社会福祉協議会で出来ないことは他団体に相談すればできるので普段からどう行動するかが重要。愛知県でどう行動するかとの課題が鮮明になりました。エフコープ生活協同組合：平成29年7月九州北部豪雨災害の経験から行政との関係づくり。情報共有会議参加の経過と実践の報告。地域に根付いた活動をすすめる地域生協だからこそ、情報共有会議から生協が担う課題が見えました。

愛知県でどのような準備・体制づくりをすすめるかが課題となりました。

（しばやま・みのる）

## 閉会あいさつ

生活協同組合コープあいち理事長 森政広

大勢の参加があり、貴重な報告ばかりでした。業務で忙しい中、準備ありがとうございました。

事前に各分科会のレジメを拝見し、それぞれの事業、組織がコロナで大変な中、これだけ多くの地域課題解決の実践があり、協同組合の力と日頃から目指している私たちのミッションに向け、活動ができていることを確信にすることが出来ました。

新型コロナウイルス感染症の収束は見通せない中ですが、報告にあったように、協同組合、団体と連携し地域とともにくらしやすいまちづくりをみなさんですすめていきましょう。国際協同組合デーの取り組みとしてだけでなく、円卓会議として日常的に連携して取組みをすすめる一歩になればと思います。今回は参加の中もひろがりました。日常的な連携、それぞれの団体だけでは出来ないことも連携すれば解決できると思います。

長時間の参加、積極的な意見交換ありがとうございました。

（もり・まさひろ）

## 分科会から生まれた協同実践

### 愛知県公立大学法人（県大・芸大）による食糧支援と コープあいちの支援

名古屋市立大学生生活協同組合・愛知県公立大学生生活協同組合

専務理事 丹羽みちの

2021年7月19日から愛知県公立大学法人（愛知県立大学・愛知県立芸術大学）の3キャンパスの生協購買にて、大学による食糧支援の食品を、事前に希望した学生に配布しました。

コープあいちの皆様は臨時の商品手配や配送に、短期間で全面的にご理解・ご対応いただいたおかげで毎日通り食糧支援のお渡しを行うことができました。対応いただいたコープあいち関係各所の皆様には感謝の念に堪えません。この場を借りて改めて謝意をお伝えしたいと思います。どうもありがとうございました。

#### ◆今回の教訓と思ったこと

- ①実質的な連携のためには、困りごとがあって初めて相談するのではなく、日常的なつながりによって担当部署や受け止めてもらえそう、という感触というか信頼関係をはぐくんでいくことが大事です。
- ②コープあいちには大学生協の相談を受け止めていただける素地があることを実感しました。
- ③大学生協はたとえCO・OP商品でも食料品手配は苦手。この点で地域生協の力は圧倒的。大学生協の現状の物流網では到底対応しきれませんでした。コープあいちの支援がなければ今回の取り組みをスムーズに進めることができない状況で、相談に応じていただき、短期間で支援を具体化してくださったコープあいちの存在が大変ありがたかったし心強くもありました。
- ④食糧支援のお渡し期間はなるべく短くすること、だらだら渡すのは保管が大変です。
- ⑤芸大生の下宿率の高さと、食料品入手で日常的に困っていそうな実態があることを認識する機会となりました。なにかできないか今後検討したいと思います。

#### （1）経緯

5月末ごろ大学法人総務部より、学生への食糧支援を計画していること、公費で食料品を購入して希望学生に配布するという内容であること、大学生協からの購入と学生へのお渡しを依頼できないかと相談がありました。具体的には長久手市補正予算による支援です。対応の大半は6月からスタートしました。

こちらからCO・OP商品をとすすめたわけではないのですが、大学にこだわりがあり、大学が選定した3,000円分のCO・OP商品の食料品とお米（長久手の『ござらっせ』から大学が購入）を一人分として渡すことになりました。



大学から一人暮らしの学生へ案内し、申込をした学生に配布。申込者 計 199 名

愛知県立大学	長久手キャンパス	76 名
	守山キャンパス	4 名
愛知県立芸術大学		119 名

＜食糧支援で配布した（注文した）商品＞

商品名・商品規格	個数/人	199人分個数	税込単価	合計金額
COコープヌードルしょうゆ71g	3	597	138	82,386
COコープヌードルきつねうどん63g	3	597	127	75,819
COコープヌードル小海老天そば69g	3	597	127	75,819
COスープ春雨 ワンタン《カップ》	3	597	108	64,476
CO即席みそ汁合わせみそ12食	1	199	214	42,586
CO鶏ささみフレーク70g×3	1	199	343	68,257
CO国産具材のビーフカレー中辛4P	1	199	509	101,291
COライトツナフレークまぐろ油漬70×3	1	199	394	78,406

※長久手温泉ござらっせの会社概要（長久手市やあいち尾東農協などが出資している会社です）

<http://www.nagakuteonsen.jp/company/entry-187.html>

- ・7月17日、コープあいちより芸大店へ商品入荷。仕分け作業を行う。その後長久手と看護に配送。商品といっしょに大学から預かった学長、理事長からのメッセージを同封する。
- ・7月19日より30日まで各キャンパス生協購買にて配布。

## （2）コープあいちからの支援の内容

大学生協はCO・OP商品の食料品物流が不便な現状があり、今回仕入れようとすると、金曜発注のリード7日＝翌週金曜に入荷、入荷先まで商品を受け取りに行かねばならないということが判明しました。困って大学生協事業連合東海地区や東海ブロック、大学生協から人事交流でコープあいちに行っている職員に相談したところ、コープあいちの経営企画部（大学生協との連携事務局）でご担当いただけそうと分かりました。

この相談の真っ最中に、たまたま、「2021 国際協同組合デー記念行事 in 愛知（7月2日）」に参加しました。分科会で、今食糧支援の食品手配で困っていると話したところ、分科会が一緒だったコープあいちの執行役員の稲嶋様に受け止めていただけたので、その話と合わせてコープあいちの「大学生協との連携事務局」に報告しました。コープあいち内部の調整を図っていただいて、公立大からコープあいちに直接発注し、コープあいち日進店から別便トラックで芸大に納品いただきました（3キャンパスの中で芸大が一番食糧支援希望者数が多かったため）。

- ・7月19日～30日まで各キャンパス購買で学生へのお渡しをしました。
- ・19日10時に長久手購買にテレビ愛知（17:00からの「5時スタ」）の取材もありました。

なお、大学生協との連携事務局のコープあいち経営企画部柴山さんから必要に応じ担当役員の方や森理事長に報告いただきながら進めました。

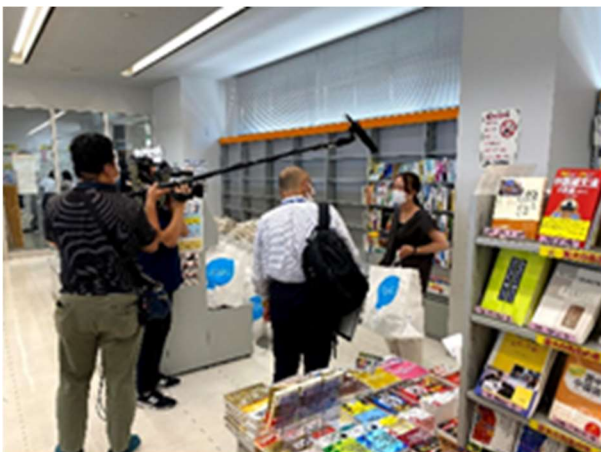
### (3) 配布の様子

・授業が一部遠隔講義になっていることもあり、講義があって登校がある日に受け取っている様子。

- ◆学生の声「食糧支援は学生にとって本当にありがたい。バイトが減って収入が少ない。」  
「こんなにももらえると思わなかった。助かる」



- ◆19日 10時、テレビ愛知（17:00からの「5時スタ」）の取材（愛知県立大学長久手キャンパス購買）



#### ◆お米の保管状況、ラベルなど



#### (4) 今後に向けて感じたこと (⑤について)

**芸大生の下宿率の高さと、食料品入手で日常的に困っていそうな実態があることを認識する機会になった。なにかできないか今後検討したい**

今回の取り組みを通して公立大生協の職員間で「いいかも」と話題にしたのが、例えば、「芸大の寮生や下宿生に入学時にコープあいちに入ってもらい、食品を注文してもらって寮などにまとめて配達する。支払いは保護者の口座引き落としかあるいは入学時に半年分とか年額一括払い、のようなことができれば」、ということです。コープあいちさんの理解と協力が不可欠ですが。

学生は手軽に安心な食品を入手出来て便利だし、生協をより理解してもらえるでしょう。大学生協は学生時代のみのお付き合いになる方が大半ですがコープあいちと入学と同時に縁ができればその後一生(?) いろんな形で生協とのお付き合いを続けていただきやすくなりそうです。コープ共済も同様に広げられそうです。一方で芸大が一学年学生定員 200 名弱という規模の小ささがネックです。

#### ※上記を感じた背景

今回は CO・OP 商品より先に、「ござらっせ」からお米が届きました。芸大の生協店舗は非常にこぶりなため、お米の保管場所に困り、購買の CVS の棚の一番下の段にやむなく保管したのですが、それを見た学生が、「買えるのかなあ」「いつから売ってもらえるんだろう」とひそひそと期待している声が一人や二人じゃなかったそうです。複数の問い合わせを受けたため、やむを得ず、「これは売り物ではありませんごめんなさい」という張り紙をしたとのこと。

これには芸大の特性と立地が影響していると推測されます。国公立の芸大は 5 つしかないことと県芸大の定員の多くが後期日程に割かれているため、全国から受験生がくること、そのため下宿率が 5 割を超える (21 年度入学組合員下宿率 53%)、県内では比較的下宿率の高い大学です。にもかかわらず、学生が思う存分音楽のレッスンやアート作品制作に励めるようにと、あえて周辺に何も無い場所に大学が立地しています。それゆえ学生の大学滞在時間も比較的長いようです。このような芸術系大学の特性のため、学内に寮もあります (女子寮 / 120 室くらい)。

(※愛知県立芸術大学 HP・学生寮 <https://www.aichi-fam-u.ac.jp/guide/guide02/guide02-09.html>)

このような大学特性を考えると、もしかしたらコープあいちがやっておられる「夕食宅配」なども若い学生にフィットする見せ方をして提案したら需要があるかもしれません。コロナ禍で、一人暮らしの学生が、下宿で孤独を感じ、せっかく合格した大学を退学してしまうことなど昨年来、時折報道されている通りです。そのようなことも影響してでしょうか、子どもが孤食にならないようにとの保護者の気持ちからか、一人暮らしの住まいでも、今春「食事付き物件」の人気の高まる傾向もあると聞いています。理工系学部を擁する国立大学の生協ならば、学生数も職員の人的資源も一定あるので、物件に食事がついていなくても、例えば大学生協が食堂の夕食営業を行ってそれを利用させていただくなどの対応も可能ですが、県芸大のような小規模大学の大学生協食堂では、経営的な問題から夕食営業が難しい現実があります。寸暇を惜しんでレッスンや制作に励む芸大生、特に下宿生には、夕食宅配の利用者を募り、利用者が集まってみんなで食べる（黙食ですが）、ということも歓迎されるかもしれません。

(にわ・みちの)

### 「2021 国際協同組合デー記念行事 in 愛知」参加者の所属団体・組織名

愛知県、愛知県厚生農業協同組合連合会、愛知県高齢者生活協同組合、愛知県生活協同組合連合会、  
愛知県労働者福祉協議会、愛知ワーカーズ・コレクティブ連合会、あいち三河農業協同組合、  
海部東農業協同組合、インターカレッジコープ愛知、エフコープ生活協同組合、金城学院大学生生活協同組合、  
こくみん共済 coop 愛知推進本部、JA 共済連愛知、生活協同組合コープみえ、公益財団法人生協総合研究所、  
大学生協事業連合東海地区、東海労働金庫、トヨタ生活協同組合、名古屋市立大学生生活協同組合、  
愛知県公立大学生生活協同組合、名古屋大学消費生活協同組合、なごや農業協同組合、西三河農業協同組合、  
ひまわり農業協同組合、北海道ワーカーズ・コレクティブ連絡協議会、NPO 法人ポトスの部屋、  
認定 NPO 法人レスキューストックヤード、  
ワーカーズコープ連合会センター事業団（総務経理センター、愛知三河事業所、静岡駿河事業所、蒲原老福館、南  
部事業所、小牧第二事業所）

### 記念行事実行委員会構成組織

愛知県農業協同組合中央会、生活協同組合コープあいち、全国大学生生活協同組合連合会東海ブロック、  
南医療生活協同組合、北医療生活協同組合、ワーカーズコープ連合会センター事業団東海事業本部、  
NPO 法人地域と協同の研究センター

発行：2022 年 3 月 1 日

「2021 国際協同組合デー記念行事 in 愛知」報告（記録）

発行：「2021 国際協同組合デー in 愛知」実行委員会

問合せ：特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

名古屋市千種区稲舟通 1-39 コープあいち生協生活文化会館3階 TEL：052-781-8280 fax：052-781-8315